

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 2月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	0170501258		
法人名	有限会社 ラピネス		
事業所名	グループホーム すずらん荘		
所在地	札幌市厚別区厚別西3条2丁目1-23 (電 話) 011-894-3000		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年1月28日	評価確定日	平成22年3月22日

【情報提供票より】 (平成22年 1月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 7月 19日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算	5.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000円	その他の経費(月額)	水光熱費他 28,000 円
敷 金	有 (144,000 円)		暖房費(11~3月) 6,000 円
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (1月28日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名
要介護3	1 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83 歳	最低 70 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さっぽろ厚別通内科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、区内で最初に開設し今年で9年目を迎えます。3年前に1階駐車場をグループホームに新築し、2階は高齢者住宅として利用されています。利用者の介護度や認知度も比較的高くなり、ホーム内は利用者の安全に配慮した設計や工夫が施され、利用者は静かな環境で、自分のペースを大切にしながら自由に過ごしています。協力医療機関との医療連携体制も整備され、訪問看護ステーションとの連携も充実し、家族の安心に繋がっています。運営者は、毎月管理者や職員との会議を開催して、話し合いを重視し、ホーム理念の実現を目指しています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は、職員会議で検討され、改善に向け取り組んでいます。「職員を育てる取り組み」と「栄養に関する支援について」は、継続しての取り組みを期待します。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価は、毎日のカンファレンスで、5項目ずつの話し合いをしています。全項目の話し合い終了後に、職員会議で全体を総括し、職員全員で確認共有をして、管理者が纏め上げ自己評価表を作成しています。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は、4ヵ月毎に開催しています。町内婦人部・近隣住民・病院長・コンビニエンス店長・包括支援センター職員・家族会代表が出席し、外部評価の報告や改善課題、災害対策、ホーム行事などの取り組みについての話し合いや認知症の勉強会が行なわれています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	毎年1回、ホーム主催で親睦を兼ねた家族会が開催され、意見交換が図られています。また、家族アンケートを実施して、家族が言い出しづらい内容の把握に取り組み、集計結果を家族会で報告し、ホーム運営に反映しています。外部・内部に苦情相談窓口も設けています。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内会に加入し、職員と利用者は、ゴミ拾いや落ち葉拾い、雪かき等の活動や日常的な近所付き合いをしています。地域向け広報誌を発行し、地域の方々への理解を深めるよう取り組んでいます。町内会や老人会行事に、利用者の体調を考慮しながら参加できるよう支援しています。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービス創設以前から「・・・地域に根ざした生活の場となるよう目指す」をホーム独自の理念として掲げ、地域生活の継続性を大切にしています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎週月曜の朝、引継ぎ時に理念を唱和して、常に意識する事で己と向き合い日々考える取り組みをしています。ミーティングで、一人ひとりの介護について理念に照らし合わせ、職員で話し合っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、職員と利用者は、ゴミ拾いや落ち葉拾い、雪かき等の活動や日常的な近所付き合いをしています。地域向け広報誌を発行し、地域の方々への理解を深めるよう取り組んでいます。町内会や老人会行事に、利用者の体調を考慮しながら参加しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、毎日のカンファレンスで5項目ずつの話し合いをしています。全項目終了後に、職員会議で全体を総括し職員全員で確認共有し、管理者が纏め上げ自己評価表を作成しています。前回の課題への取り組みも職員会議で話し合い前向きに検討しています。		

札幌市厚別区 グループホーム すずらん荘

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は4ヵ月毎に開催しています。町内婦人部、近隣住民、病院長、コンビニエンス店長、包括支援センター、家族会代表が出席し、外部評価の報告や改善課題、災害対策、ホーム行事等の取り組みについての話し合いや認知症の勉強会が行なわれています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、地区の管理者会議に出席し、情報交換をしています。区の担当窓口とは、ホームや利用者の状況についての相談をし、サービスの向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家賃等の利用料はホーム持参の支払いとなっており、家族来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭収支など詳細に報告しています。ホーム便りを2ヵ月毎に発行し、ホーム全体の様子や個別通信欄を設けて利用者の状況を知らせています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年1回、ホーム主催で親睦を兼ねた家族会が開催され、意見交換が図られています。また、家族アンケートを実施して、言い出しづらい内容の把握に取り組み、集計結果を家族会で報告し、ホーム運営に反映しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、毎月の職員との意見交換を重視し、職員全員で運営方針を共有しています。また、研修会への参加協力、職員の福利厚生面の充実など、働きやすい職場環境作りを目指しています。やむを得ず職員が離職する場合は、チームケアを実践して利用者への負担を最小限にするよう努力しています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、年間計画を立案し取り組みましたが、職員不足の為、勤務調整がつかず、職員全員の参加には至りませんでした。ホーム内勉強会は、毎月実施して、外部研修報告やその研修内容が利用者にどのように反映できるかの考察、利用者の課題解決への勉強に取り組んでいます。	○	昨年からの課題であり、職員全員が外部研修への参加機会を確保できるよう取り組みの継続を期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、地区の管理者会議や地域のネットワークに参加して、情報交換などの交流が行なわれています。職員同士の交流は、現在、十分な取り組みには至っておりません。	○	以前、地域でグループホーム同志の視察研修を企画し、地域全体のスキルアップに取り組んでいましたが、その復活への取り組みを期待します。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族からの相談後、利用者家族にホーム行事を見学参加していただき、ホームでの暮らしぶりや雰囲気を感じていただくようにしています。又、自宅に伺い、居室や自宅周辺の環境を写真に撮り、自宅での行動パターンや暮らしぶり、利用者や家族の意向を十分に伺い、入居後の暮らしに役立てています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	言語的表現の出来る利用者や、身体的に自立傾向の利用者が少ない為、職員は、日常の生活場面で「これで良いのか、一方的になっていないか、何を言おうとしているか」を常に考えるように支援しています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前から、情報収集は丁寧に行ない、自宅内外の写真や好みの物など、入居後の暮らしの参考にしています。また、言語的表現の出来る利用者が少ない為、共に過ごしながら、笑顔や顔の表情、しぐさ、行動などにより意向を把握しカンファレンスで検討しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活見直しチェック表やセンター方式のアセスメント、家族の意向を参考に、カンファレンスを重ね職員全員の意見を纏め、暫定計画を立案しています。その暫定計画をもとに、担当職員が詳細部分を加え具体的計画を作成し、職員全員で確認し共有しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画のコピーを記録ファイルに入れ、プランに基づいた記録がされています。介護計画見直し時期の2週間前から、生活見直しチェックの確認やアセスメント、見直しシートでの分析評価を実施し、新たな計画に繋がっています。状況変化時も家族との連携を密にしながら、医療関係者等と話し合い、検討しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制により、訪問診療や訪問介護を実施し、利用者の健康管理を支援しています。また、家族の状況に合わせて、病院の入退院の送迎、買物の同行などの支援が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による往診や24時間の密接な連携体制、訪問看護ステーションによる訪問看護（毎週）が行なわれ支援体制が整備されています。歯科の訪問診療により、定期チェックや口腔ケア指導の支援をいただいています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応指針を定めており、家族会で看取りについてのホームの方針を説明しています。個々のケースについて、利用者や家族の意向を大切にしながら、ホームの方針と照らし合わせ、医療機関や関係者との話し合いを重ね、段階的に方針を共有しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけや対応は、常に注意を払い、職員は一人ひとりの誇りを尊重しプライバシーの遵守に努めています。個人情報の管理を徹底し、情報提供必要時は、契約書で合意を交わし、家族に了解をいただいています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	管理者や職員は、利用者が主体であり優先であることを大切に支援しており、利用者は自分のペースでゆったりと過ごしています。また、職員は、利用者の興味のあることや意向を常に探り、支援できるように努めています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は生活の中での至高の楽しみなので、利用者の好みに配慮しながら、調理師によるプロの味を提供しています。利用者が出来ることは、強制せず、自発的に希望した場合には見守り支援しています。利用者は、ゆっくりと味わいながら、全量摂取されています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は曜日・時間帯を特に設定せず、利用者の希望や様子から察知して、週2～3回の入浴支援をしています。入浴剤を使用したり、希望で垢こすりをしたり、長湯を好む利用者など、利用者一人ひとりが楽しみながら入浴できるよう支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来ること、わかることを定期的にチェックし、何に興味を持ち喜んでいただけるかを常にリサーチして、生活の中に取り入れるよう支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外部評価やホーム実施の家族アンケートでも課題項目として挙げられ、年間計画を立てて前向きに取り組んでいます。遠出の外出や家族との外出・近所の公園へのお花見や外気浴・コンビニへの買物・庭花の水遣りなどです。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の玄関ドアは防犯上施錠していますが、日中は、開錠しています。		

札幌市厚別区 グループホーム すずらん荘

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力をいただいて、夜間想定避難訓練を実施しています。利用者の状況に合わせて、避難する順番や避難方法などを検討し、柔軟に支援できるように訓練しています。近隣の方々には、避難場所や避難後の利用者の見守り等の協力をお願いしています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を毎回チェックし、嚥下困難やむせ込みの激しい利用者に、とろみにする等の工夫をして、大まかな必要量を確保できるように支援しています。前回課題の管理栄養士によるカロリーチェックや専門的指導の取り組みが十分な整備には至っておりません。	○	調理士による味や彩りなどバランスを考慮した食事が作られていますが、より栄養バランスや安全に配慮し、管理栄養士による専門的指導をいただくなど、取り組みの継続を期待します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	3年前に新築され、回廊式で、危険防止や死角を無くす工夫が至るところに施され、洗面所・トイレ・浴室は使いやすく設計されています。また、ソファやテーブルの配置を工夫して、利用者のテリトリーや利用者同士の交流に配慮し、居心地良く過ごせるように支援しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族の希望により、使い慣れた家具や小物、寝具を持ち込み、馴染みの空間を作る工夫がされています。また、危険防止の為、手すりを設置したり、寝具を工夫して、転倒予防に配慮しています。		

※ は、重点項目。